

西建協だより

176号

2009年
3月



建設業年度末労働災害防止強調月間にあたり

建設業労働災害防止協会 東京支部西多摩分会長 井上忠男

常日頃、建設業東京支部西多摩分会の会員の皆様、西建協の会員の皆様、関係各位の皆様には、当協会運営に参加ご協力を頂いておられますことに、まずもって感謝申し上げます。

さて、「建設業年度末労働災害防止強調月間」について説明させて頂きます。

年度末には、公共工事等の多くが、完成工期を迎えることから、厳しい工程管理等で作業間の連絡調整の不足、作業指示の不徹底、過重労働等により、安全衛生管理が不十分となり、労働災害が多発する事が憂慮されます。これらに対処する為、建設業労働災害防止協会の主催、厚生労働省、国土交通省の後援に

より三月一日から三月三十一日までを「建設業年度末労働災害防止強調月間」と定め、労働災害防止の徹底を図る為の運動を展開するものであります。

現在の建設業は建設投資額の大幅な減少等に加え、アメリカのサブプライムローン発端とした世界的な金融危機に伴う、景気後退により、建設、不動産市場の一層の冷え込みが予想され、かつてない厳しい経営環境におかれておりますが、このような時こそ、経営トップが安全に対する認識を新たに、強いリーダーシップを発揮し、会社一丸となって自主的な安全衛生管理活動を進めていく必要があります。

特に労働災害の一層の減少を図る為には、マネジヤル面ではリスクアセスメントを確実に実施すると共に、「建設業労働安全衛生マネジメントシステム（コスモス）」の導入・実施によって「計画・実施・評価・改善」のPDCAサイクルを効率的に運営し、安全衛生水準の継続的な向上を図る事が重要であります。

又、何より基本的なことは、社員一人ひとりの安全意識の向上であります。最後にあたり、皆様が無事故無災害で新年度を迎えられるよう、ご祈念を申し上げます。

青梅マラソン（10キロの部）を完走して 理事 古屋英司

平成20年6月のある日・・・企業の健康診断にメタボ検診の実施が推奨されてからはや1年、増加し続ける己の腹部を見るにつけ「どげんかせんといかん！」と某県知事風に危機感を抱いたのです。

何か運動を始めないと・・・。それまでも、ジョギングや散歩程度はしてはいたのですが定期的に運動しないため、効果が上がりませんでした。何が良いのか探しているうちに月日は過ぎていきました。

そんなある日、青梅市の体育館に行く機会があり、ふと【第43回青梅マラソン大会】出場者募集のポスターが目に入りました。「どうもこのままでは、今年も何も運動をせずに終わってしまいそうだ。青梅マラソンに出場申し込みをすれば、いかにグウタラな自分でも運動せざるを得なくなるだろう。」と半年後の自分に宿題を出したのです。

しかし、参加申し込みをした程度ですぐに練習を始めるわけもなく、「今日は体調が優れないから」、「今日は雨が降っているから」等々の理由を見つけては練習をしない日々が続いたのです。

結局、練習を始めたのは、年明け大会まであと1カ月余りとなったころでした。最初は、10分走って5分歩き、また10分走っては5分歩くというペースで練習を行い、走るということに体を慣れさせようとしていました。練習日も、1回走ったら2日間は走らず3日後にまた走る、という間隔で行い、筋力が回復してから走るように心がけました。10キロの部の制限時間は、1時間15分なので1時間で10キロ走るペース即ち時速10キロで走れば良いのですが、これがなかなか思うようにいきません。練習では、1キロの区間を6分で走ることを心がけて走りました。（このペースで60分走ることができれば時速10キロになります。）大会の1週間前までは、なんとかペースがつかめるようになりました。

大会当日は、好天に恵まれ10キロの部の参加者は約5千人とのことでした。気温も14℃まで上昇し、走るには少し暑いくらいでした。午前10時のスタートの合図とともに参加者が一斉に走り始めました。走り出した当初は自分の周りに多くのランナーがいるため、なかなか自分のペースが掴めませんでした。日向和田で折り返してからはいつもの走り方が取り戻せました。70歳代の人や、伴走者に付き添われて走っている目の不自由な方が、走ることを心から楽しんでいる姿に勇気づけられたり、沿道から声援してくれる方に励まされながら何とか完走することができました。

それにしても、【走る】という最も単純な運動がこんなにも奥が深いとは思いませんでした。特別な道具や専用のグラウンド等を使用しない分、結果の全てが己の責任として返ってきます。一切の言い訳は通用せず、途中で棄権するのも、走り続けるのも、全て自分自身との対話によって決定しなければならないのです。

今回、青梅マラソンに参加したことで、走ることの楽しさには少しだけ触れられたような気がします。

最後に、青梅マラソンの運営にご尽力いただいた関係者の皆様や、早朝より大会のスムーズな運営のために御協力いただいたボランティアの方々、コース周辺住民の方々に改めて感謝させていただきます。

講習会開催報告（二月号の続き）

若手経営者の会代表幹事 岩浪 岳史

そうした強いパワーにより軌道に乗ってからは、「ファンタジー営業部」は様々な反響を呼び、成功を収めました。建設業ファンづくり活動という観点からも、その反響の数をみれば少なからず効果があったことでしょう。地域に、社会に貢献する建設業が一般社会から正しく認識されることは、我々の重要な課題でもあります。今回の講習会で触れた考え方や行動を、来年度以降の若手経営者の会の活動の糧にしていきたいと思えます。

若手経営者の会では、こうした講習会を今後とも開催する予定です。会員のみならず組合員、賛助会員の方々にも興味をもって頂ける企画を考えて参りますので、その際は多数の方に参加して頂きますようお願い致します。

（二月号掲載洩れをお詫びいたします）

鳩ノ巣溪谷の絶景

東日本建設業保証（株）建設産業図書館
事務局 江口 知秀

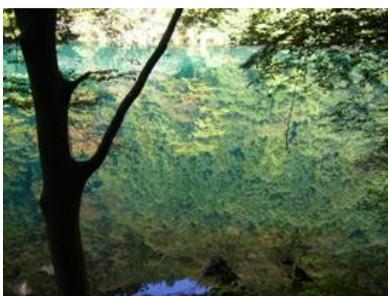
アスファルトとコンクリートの中で人波に揉まれていると、腹の底に澱がたまつたような気分になり、ふと旅に出たくなります。関東近郊で私が気に入っているのは、奥多摩周辺の山々を巡ることですが、なかでも多摩川上流の鳩ノ巣には素晴らしい溪谷があります。

JR青梅線の鳩ノ巣駅で下車し、白丸ダムを目指して溪谷筋の遊歩道を上流へと歩くコースがおすすめです。白丸ダムの先には同じく青梅線の白丸駅が控えていますので、引き返す必要もありません。

季節は紅葉の時期がよいでしょう。距離はせいぜい2、3kmですが、天候に恵まれれば息を呑むような絶景に出会えるはずですよ。

上流から差し込む太陽の光が、谷間に満ちた微粒子に柔らかな幾筋もの軌跡を残しながら、多摩川のグリーンと溪谷の白い岩肌を優しく照らし出します。私がこれまで見てきた溪谷の中でも1、2を争う美しさで、東京都とは思えません。

白丸ダムに到着すると、溪谷美は終息を迎えますが、ここで引き返してはいけません。白丸ダムが造るダム湖の水面を眺めてください。ダム付近ではなく、さらに遊歩道を進みながら眺めるとよいでしょう。多摩川の深い緑をたっぷりと湛えた湖面には、何が見えてくるのでしょうか。どうぞ実際に足を運んで確かめてください。



賛助会員PRコーナー

事務機・OA機器・介護福祉機器

株式会社 **カシワ**

Kashiwa

〒198-0024 東京都青梅市新町4-19-9
TEL (0428) 32-0678
FAX (0428) 32-0676

コピー機の経費削減のご提案

- ・カラー複合機の販売から保守サービスまで当社でやります！
- ・サービス実施店ならではのカウント料金で対応致します！
- ・当然、組合員様には特別対応させていただきます！

お気軽にお問い合わせ下さい！

当社は昭和55年の創業以来、西多摩地区を中心にコピー機、事務機、OA機器等の販売及び保守サービス事業を続けております。時代とともに事務所の環境も大きく変わってきました。今ではパソコン作業が欠かせなくなっております。その環境の変化に対応したオフィスづくりのご提案販売を主に営業しております。



代表取締役 **根本太夫**



昭和38年 現組合事務所地鎮祭
背景は旧青梅合同庁舎
同じ角度からの見た現在の写真



*皆様がお持ちの、西多摩の古い写真掲載いたしますので、事務局までご連絡下さい。

◇新企画のご案内◇
西多摩の橋(多摩川編)に続き四月号より『写真が語る西多摩(今昔)』を掲載いたします。古い写真を基に、現在の同じ場所の写真を掲載します。

3月事業計画

- 4日 工事現場パトロール (西多摩分会)
- 5日 あきる野地区委員会
- 6日 広報委員会176号編集発行
- 16日 総務委員会
- 18日 正副理事長会、理事会

《2月18日(水) 理事会報告》

- ①報告事項
- ・西多摩建設業連合会新年会懇親会報告
 - ・西多摩建設業連合会と国交省京浜河川事務所との意見交換会開催(3月19日)
 - ・各委員会報告
- ②審議事項
- ・新年懇親会会計報告 出席者85名
 - ・経営講習会後の今後の取組について
 - ・21年度予算・総会準備日程等について
 - ・組合加入希望者の件

◇特集◇ 西多摩の橋 多摩川編 第25回(最終回)

◎JR五日市線 多摩川橋梁(鉄道では橋を橋梁と云う)



用途: 鉄道 橋長: 466.3m
構造/桁橋 下路ワーレン66.4×2
桁橋 上路 合成40.0m×1
上路 単純26.5~12.9×18
下部/橋台2基 橋脚20基
水面まで1.2m
施工年月大正14年4月 管理/JR

○五日市鉄道株
大正11年5月 創立
武蔵岩井からセメント原石を輸送する目的で、大正14年4月 拝島~武蔵五日市間を蒸気機関車2両付帯車14両で、開業
大正14年9月 武蔵五日市~武蔵岩井間が開業。



◎陸橋

昔道の五日市街道が多摩川を渡るに、「牛浜」と「熊川」の渡しの二つがあった。前者が本路で、後者は脇路におもえる。

大正期、二者選一のか架橋時、往来の多かった前者の地を優先し多摩川橋(2月号掲載)が造られた。

現代に至り、車社会になり、高速・効率・利便な交通路が求められた。本路の牛浜通りを拡張整備するには、莫大な費用を伴うとあって、脇路であった熊川道が見直され、秋川筋の出入り口に近代的4車線の橋が造られた。

橋完成の記念標示に「歴史的背景を持つ、熊川と小川を結ぶ橋が架かり、絶えて久しい人の交流が始まり、仲睦まじく繁栄をもたらす」と橋名の由来を知らせる。

昭和57年4月8日、福生市と秋川市(あきる野市)を結ぶ『陸橋』の開通式が行われました。この橋は、昭和53年から4年の年月と総工費16億2400万円をかけて、東京都が施行して完成しました。この開通により多摩橋、永田橋の混雑が緩和されるとともに、八王子方面や中央高速道路へ行くのに大変便利になりました。

用途: 道路橋 橋長: 350m 幅員: 車道12m 歩道3m×2
構造/桁橋 上路4,3径間連続 7主 I型鋼
下部/橋台2基 橋脚6基 水面まで1.0m
施工年月: 昭和57年3月

